

地域医療にどっぷり浸かる

— 医師会活動を通して —

公益社団法人日本医師会会長

医療法人松本皮膚科形成外科医院理事長・院長

松本 吉郎 氏 (高校25期)

1973年3月都立立川高校卒業
1980年3月浜松医科大学医学部卒業
1980年4月浜松医科大学医学部皮膚科入局
1988年7月医療法人松本皮膚科形成外科医院理事長・院長
2014年6月大宮医師会会長
2016年6月日本医師会常任理事
2022年6月日本医師会会長



■立高時代のエピソード

陸上競技部に所属し、100・200mに取り組んでいましたが、2年生の春に100mでなんとか11秒台に突入する程度の選手でした。400mリレーのメンバーとして都大会に出るのがやっとでした。顧問と1年生と3年生の担任は、柿添先生でした。多くの同級生と同様に合唱祭・体育祭・文化祭に取り組んでいましたが、のめり込むほどではありませんでした。立高での勉強は、2年生になってから頑張りましたが、結局1浪して浜松医科大学医学部に入学しました。

■現在に至る経緯

医師を目指したのは、産婦人科医だった叔父の勧めでした。医学部進学は2年生の時に決心しました。大学を卒業してからは附属病院で研鑽し、皮膚科専門医と形成外科専門医を取得しました。自分の培った能力を生かし、地域医療に身を投じる決心をして、埼玉県大宮市(現さいたま市)で小さな医院を開院しました。7年ほど経って医院が軌道に乗った時に、院内の仕事だけでは物足りなさを感じ、地域医療の全体を考えてみたいと思いました。地域の救急医療・公衆衛生活動・学校医・行政関連の仕事などは、地域の医師会が行政のカウンターパートになって実施されています。

医師会活動の目的は、まさに地域医療をしっかりと回していくことです。その使命は、国民・県民の生命と健康を守ることにあります。現場の問題を解決するためには、政治活動を行う必要もあります。学術活動を推進することも大切です。

地域の医療にどっぷり浸かり、医師会活動を26年続けた結果として、地元の大宮医師会会長、埼玉県医師会常任理事を経て、日本医師会常任理事となり、2022年6月に第21代日本医師会会長に就任しました。

是非、医師を目指す方や医師になられた方は自らの医療機関だけではなく、地域医療にどっぷり浸かる大切さと喜びを考えてみてはいかがでしょうか。

私は現在も、早朝から自院で少し診療をしてからほぼ毎日、日本医師会(東京都文京区)に向かいます。そこでは、テレビの世界のようにステーキは出てきません。普通のお弁当が出るだけです。半年間で、35都道府県を訪れ医療現場を見させていただきました。44回の講演も行いました。ほとんど休みなく日曜祭日も活動しております。

■立高生へのメッセージ

医師の仕事は、臨床・研究・教育・行政の仕事・地域医療への関わりなど多岐にわたり、皆さんの潜在能力が遺憾なく発揮できる職業であり、国民からの期待も大きいです。是非、高校生の間はしっかりと幅広い勉強をしていただいて、医学部進学を視野に入れていただきたいと思います。早く社会に出て働き、世の中に貢献することが大切です。今は将来の自分への投資と捉えて充実した毎日をご過ごしてください。



岸田総理と